

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2008年9月下旬から11月上旬までの旬別
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業：さんま棒受網漁業
 対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量：9月下旬は、高位水準を維持する。10月上旬から減少を始め、10月中旬には中位水準となり、10月下旬以降は低位水準となる。
- (2) 漁場：9月下旬～10月上旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖に漁場ができる。落石沖の漁場は10月中旬に消滅し、10月下旬は釧路～襟裳岬沖、11月上旬は襟裳岬沖が漁場となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量：9月下旬は低位水準であるが、10月上旬は高位水準へと増加する。10月下旬以降は、ゆるやかに減少する。
- (2) 漁場：9月下旬～10月上旬は、八戸～宮古沖に漁場ができる。10月中旬には、漁場が三陸南部まで広がり、11月上旬まで三陸北部～南部にかけて漁場ができる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量：10月上旬は来遊量は少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる。10月下旬には、中位水準にまで増加し、11月上旬も中位水準で推移する。
- (2) 漁場：10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となり、11月上旬には常磐南部まで漁場が広がる。

2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位水準	高位減少	中位低下	低位減少	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	高位増加	高位水準	高位減少	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位増加	中位増加	中位水準
	漁 場			北部	北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬・前年を上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期中半から来遊量が増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石沖、釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南東～南の 15～20 海里付近(表面水温 16～18℃)。1～3 日夜と、10 日夜に小型船主体に操業。1 回 0.7～1.6 トン漁獲。群は淡い中～小群。

釧路南南東 40 海里付近(表面水温 17℃)。4 日夜に小型船が十数隻操業。1 回 1 トン漁獲。群は淡い小群。

襟裳岬南南東 30～南 60 海里付近(表面水温 17～20℃)では、4 日夜と 7～10 日の夜に大型船主体に操業。最高 100 トン前後、平均 55～85 トン程度漁獲。濃群と淡群が混じる中～小群。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.1～2 割程度。体重 150g 台が主体。